

トラネキサム酸(3327002)

【成分】

1錠中、トラネキサム酸 250mg

【適応と用法】

- (1)全身性線溶亢進が関与すると考えられる出血傾向(白血病,再生不良性貧血,紫斑病等,及び手術中・術後の異常出血)
- (2)局所線溶亢進が関与すると考えられる異常出血(肺出血,鼻出血,性器出血,腎出血,前立腺手術中・術後の異常出血)
- (3)次の疾患における紅斑・腫脹・そう痒等の症状:湿疹及びその類症,じんま疹,薬疹・中毒疹
- (4)次の疾患における咽頭痛・発赤・充血・腫脹等の症状:扁桃炎,咽喉頭炎
- (5)口内炎における口内痛及び口内粘膜アフタ。ただし,ヘムロン注 5%5 mLは(3)~(5)を持たず,トラネキサム S 注射液は咽喉頭炎を持たない

トラネキサム酸として1日 750~2,000 mg,3~4回に分服(増減)。(シロップ)次の1日量を3~4回に分服(増減)。15歳以上 750~2,000 mg,14~7歳 400~1,000 mg,6~4歳 250~650 mg,3~2歳 150~350 mg,1~0歳 75~200 mg

【注意事項】

- (1)慎重投与
 - (a)血栓のある患者(脳血栓,心筋梗塞,血栓静脈炎等)及び血栓症が現れるおそれのある患者 [血栓を安定化するおそれがある]
 - (b)消費性凝固障害のある患者(ヘパリン等と併用する) [血栓を安定化するおそれがある]
 - (c)本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

(5)その他の注意:イヌに長期・大量投与したところ網膜変化を起こしたとの報告がある

(6)室温・(シロップ)遮光保存

(7)規制等:トラネキサム酸局

【副作用】

(2)相互作用

併用注意

薬剤名等 臨床症状・措置方法 機序・危険因子

止血性臓器製剤,ヘモコアグラゼ 大量併用により血栓形成傾向が現れるおそれがある これらの薬剤によって形成されたフィブリン塊は,本剤の抗プラスミン作用によって比較的長く残存し閉塞状態を持続させるおそれがあると考えられている

(3)副作用 副作用発生状況の概要:総症例数 2,954 例中報告された主な副作用は食欲不振 0.61%(18件),悪心 0.41%(12件),嘔吐 0.20%(6件),胸やけ 0.17%(5件),そう痒感 0.07%(2件),発疹 0.07%(2件)等であった[文献集計による(再審査対象外)]。次の副作用が現れることがあるので,異常が認められた場合には必要に応じ中止するなど適切な処置を行う

種類/頻度 0.1~1%未満 0.1%未満

過敏症 そう痒感,発疹等

消化器 食欲不振,悪心,嘔吐,下痢,胸やけ

その他 眠気

(4)高齢者への投与:一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意する

【長期】

L-システイン(3999006)

【成分】

1錠中、L-システイン 80mg

【適応と用法】

- (1)湿疹,じんま疹,薬疹,中毒疹,尋常性ざ瘡,多形浸出性紅斑
- (2)放射線障害による白血球減少症

L-システインとして適応(1)には1回 80 mg,1日 2~3回(増減)。適応(2)には1回 160 mg,1日 3回(増減)

【注意事項】

(3)適用上の注意 投与時:放射線障害による白血球減少症の場合は,通常,放射線照射1時間前から投与を開始する

(4)室温保存

【副作用】

(1)副作用:2,122 例中副作用が報告されたのは14例(0.66%)で,その主なものは悪心 10件(0.47%),下痢 2件(0.09%)等であった(承認時)

0.1~5%未満 0.1%未満

消化器 悪心 下痢,口渇,軽度の腹痛

(2)高齢者への投与:一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意する

【長期】

【備考】